



豊島区の遺跡調査 25年

竹本焼終焉の地



はじめに

平成 25 年は、豊島区で初めての本格的な発掘調査が染井遺跡で行われてから 25 年、四半世紀という節目の年にあたります。

現在は住宅街、商店街など高密度で土地利用が行われている豊島区においても、継続的に調査に取り組むことによって、遺跡の内容が次第に明らかになってきています。本展では染井遺跡の近世植木屋の調査や駒込一丁目遺跡の弥生時代集落の調査などの長年にわたる発掘調査の成果や、注目される発見などをご紹介します。

染井遺跡？駒込一丁目遺跡？ぼくらがいる雑司が谷のほかにもたくさんの遺跡があるみたい。



豊島区では、古くは約3万年前の旧石器時代の石器から、アジア・太平洋戦争末期の痕跡まで、幅広い年代の遺跡が発掘されているんです。



雑司が谷遺跡と窯跡

研究の進展によって明らかにされた雑司が谷遺跡の内容も多岐にわたります。これまでに実施した雑司が谷遺跡の発掘調査では、江戸時代を中心に旧石器時代から近代にかけて各時代の遺跡が存在することが判明しています。

そこで、雑司が谷まちかど遺跡ミュージアムではコーナー展示を特設して、雑司が谷遺跡から出土した竹本園関連資料の一部を公開します。竹本園は明治末頃から昭和初期にかけて雑司が谷3丁目で操業した窯で、これらに関わる遺物は近代における豊島区の地場産業を語る上で欠かすことのできない、地域にとって重要な資料です。



竹本隼太像
（『豊島区史』から転載）



角兵衛獅子のカクベイです。スズミンと一緒に、竹本焼を紹介します。



ぼくはすすきみみすくのスズミンだよ。今回は雑司が谷にあった近代の窯跡の話だよ。

▶ 大正 15(1926) 年の雑司が谷周辺
(大正 15 年東京府下高田町明細図をもとに作成)



大正 15 年図に「竹本園」が
確認できます。鬼子母神参道
から奥に入った場所に移し操
業していたようです。



鬼子母神堂

竹本園故地

現在地

目白駅

目白通り

竹本焼は最初、高田 1 丁
目の斜面上にやきものの窯
を構えたんだよ。その名を
「含翠園」というんだ。

都電荒川線

含翠園故地



明治通り

神田川

雑司が谷周辺の現在地図
(東京都2500デジタルマップより作成)

500m

竹本焼とは

竹本焼は旧幕臣旗本竹本要齋が興したやきものです。要齋は、明治維新を機に武士を捨て、かねてより興味を持っていた陶磁器の生産を始めました。現高田1丁目の屋敷地内に登り窯を移築、陶工を雇い入れ、含翠園と称したのです。含翠園は、欧米に需要が多かった薩摩焼風金襴手の製品を中心に手がけていましたが、経営は思わしくなく、煉瓦や土管といった洋風建築用の建材なども焼いていたようです。さらに、明治6（1873）年には火事を出し、窯を失ってしまいます。

要齋は、外国奉行や將軍のそばに仕えて仕事をしていた人なんだよ。



隼太の活動

要齋の息子隼太は研究を重ね、石膏型成形法やフランス式直立円窯といった海外の技術を導入し、休業状態だった含翠園で生産を再開します。製品は、花瓶や盆栽用の植木鉢を中心としており、蕎麦釉・辰砂釉といった釉薬に特徴がありました。また、経営を考慮し、生糸の生産に欠かせない製糸機械の部品や、女性の結髪に用いる笄の部品なども生産していました。万国博覧会・内国勸業博覧会を始め、数々の品評会や展覧会に出品されたこれらの製品は、内外に高い評価を受け受賞を重ねています。隼太は地元名士でもあり、高田村村議も務めていましたが、44歳の若さで病死し、息子の皐一が後を継ぎました。

竹本園の操業

皐一は、父の仕事を踏襲する一方で、経営強化のため、さらに磚子類（絶縁体）の生産をも開始します。

その後、明治41（1908）年には、雑司が谷に工場を移転し、主力製品を磚子類に絞りました。工場は以後竹本園と称し、大正4（1915）年には工場の経営権を山下熊太郎氏に売却、昭和9（1934）年には遂に廃業、ここに竹本焼の流れをくむやきものは終焉を迎えることとなったのです。

発見された窯跡の規模は長さ5.3 m以上、幅1.2 mです。窯の構築材として、煉瓦が数多く使われています。



◀ 竹本園と推定される窯跡



竹本園関連遺物の解説



【印章】

磁製スタンプ。「竹本工場」名は文献史料中にはみられず、使用時期は不明。

「竹本工場」名のスタンプが出土したんだね。でも、出土した遺物の中に、これが押されたものは見当たらなかったなあ。



【テストピース】

うわぐすり釉薬の発色を確かめるため、粘土を小さく形作ってうわぐすり釉薬を掛け、試しに焼いたもの。



テストピースは、緑色や赤紫色、茶色等が出土しています。赤紫色は「辰砂釉」と言い、竹本焼で用いられた代表的な釉薬の1つです。

◆窯詰め道具（窯道具）

【匣鉢】

窯詰め使用する耐火粘土製の容器。製品の大きさに合わせて大小のものがあり、積み重ねて使用する場合もある。



【焼台】

製品を載せ、焼成時にうわぐすり釉薬が棚板に流れ落ちたりするのを防ぐために作品と棚板の間に置くもの。雑司が谷遺跡では支柱状や環状・方形等さまざまな形の焼台が出土している。

【棚板】

製品を上面に置いて焼成する。円形や扇形等を呈する。



共催：豊島区教育委員会教育総務部教育総務課文化財係・NPO法人としま遺跡調査会・雑司が谷案内処

雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム
豊島区の遺跡調査 25 年
2013 年 11 月 22 日発行

編集：NPO法人としま遺跡調査会
H P : <http://www.toshima.iseki.org/>
発行：雑司が谷案内処